

No.2 多発しているトラック - 交通事故（道路）の死亡災害事例（2018年）

2018年発生月	発生時	死亡災害事例	業種 (小) コード	起因物 (小) コード	事故の型 コード	労働者規模
12	18～19	自動車専用道路（制限速度70km/hの対面通行）の直線部分で、被災者が運転する2トントラックがセンターラインを越えて右側反対車線へはみ出し対向車と接触。その後、自車線左側のガードレールに車体を擦りながら逸走した後、道路左側のガードレールを突き破って約5メートル下の山林に転落し、胸などを強く打って死亡した。	40301	221	17	1～9
11	10～11	信号のない交差点の横断歩道を横断中に直進してきたトラックにはねられた。	11502	221	17	1000～9999
11	12～13	トラックで高速道路を走行中、乗用車に後方から追突され、トラックが横転し、運転者が死亡した。	40301	221	17	30～49
11	6～7	県道（片側1車線）にて、被災者は汚泥をバキューム車で施設に運ぶ途中、センターラインをはみ出し、対向車線を走っていた11トントラックと正面衝突をした。バキューム車の運転手は全身を打ち、まもなく死亡。また、トラックの運転手は重傷を負ったもの。	150103	221	17	30～49
11	10～11	顧客の商品自動車を引き取るため、顧客の店舗付近の車両を保管してある駐車場へ当該店舗の担当者の案内で移動中、道路を横断するため歩行者用信号が青になったことに従い横断歩道を渡っていたところ、被災者の左側から走行してきた軽貨物自動車にはねられ死亡したものの。	40301	221	17	50～99

11	6 ～ 7	会社から土砂を積みに行くため、ダンプカーで国道を南進中、橋を渡って200メートルほどの地点で反対車線にはみ出して防雪柵に衝突、頸髄断裂により死亡した。小雨が降っており、路面は濡れていた。	40309	221	17	50～ 99
11	16 ～ 17	県道において被災者の運転するフォークリフト（4 t）と他社の労働者が運転する2 tトラックが衝突し、トラック運転手は左足骨折により入院、被災者は外傷性くも膜下出血により死亡したもの。災害発生場所は片側一車線の直線。災害発生時刻は帰宅ラッシュと重なる時間帯である。被災者はフォークリフト運転技能講習を修了していなかった。	11509	221	17	1～9
11	12 ～ 13	被災者は、配達先から帰社するため、国道を3トントラックで走行していたが、緩やかなカーブにさしかかったときに対向車線にはみ出し、対向車線を走行していた10トントラックと正面衝突した。被災者は病院に搬送されたが、後日死亡した。	80109	221	17	10～ 29
11	2 ～ 3	国道のスノーシェッド内の緩いカーブにおいて、被災者が運転する大型トラックと対向車の大型トレーラが正面衝突した。	40301	221	17	1～9
11	4 ～ 5	トラックを運転していた被災者が、高速道路下り線を走行していたところ、渋滞で減速した高速バスの左後部に追突した。被災者が死亡し、追突された高速バスを運転していた運転手1名と高速バスの中で仮眠中の運転手1名が負傷したもの。	40301	221	17	1～9
10	22 ～ 23	被災者は、県道において、樹脂約16トンをトレーラーで運搬中、センターラインをはみ出し、対向車線脇の電柱等に衝突して死亡したものの。	40301	221	17	10～ 29
10	22 ～ 23	会社所有のトラックに労働者4名を乗せ、工事現場から当該会社へ帰社途中、高速道路を走行途中で被災者が用を足したくなったためトラックを路肩に停車したところ、被災者が降車した際に後方から走行してきた乗用車に跳ねられ脳挫傷により死亡した。	30302	221	17	1～9

10	10 ～ 11	被災者はトラック（最大積載量8トン）を運転し、所属事業場へ向けて国道を走行中、片側交互通行規制された道路上で前方より走行してきたダンプトラック（最大積載量10トン）と衝突したものの、工事現場の誘導員はダンプトラックに対し停止合図を行っていたものの、当該ダンプがこれを振り切り走行したものの。被災者はドクターヘリで医療機関に搬送され治療を受けていたが、翌日死亡した。	40301	221	17	10～ 29
10	6 ～ 7	被災者は、マイカー（軽自動車）で会社の借り上げアパートを出発し、同僚を乗せ、工事現場に向かう途中、見通しの良い片側3車線の道路で、大型車（26tタンクローリー）が右折していたところに、マイカーを直進させ、大型車の左後方タイヤに激突した。同僚も多発性外傷により重傷を負った。	30309	221	17	30～ 49
10	4 ～ 5	国道において、大型トラックで南下していた被災者が北上していた中型トラックと正面衝突し、それぞれの運転手が死亡した。	150102	221	17	10～ 29
10	4 ～ 5	中型トラックにて、国道を走行中、反対車線を走行してきた大型トラックと衝突し、双方の自動車運転手が死亡したものの。	40301	221	17	1～9
10	22 ～ 23	被災者は、国外での出張業務を終え、空港から社用車で事業場に向かっていた。国道を北上中、対向車線を走行中の10tトラックが無理な追越しを行ったため、被災者の車と正面衝突したものの。	10501	221	17	100 ～ 299
10	12 ～ 13	被災者がミキサー車を運転し県道を走行中、対向車と正面衝突した。	10901	221	17	10～ 29
10	12 ～ 13	国道のトンネルを走行中、対向車の大型トラックがセンターラインをはみ出し、被災者の大型トラックと正面衝突し、死亡したものの。	40301	221	17	1～9
	12	荷卸し後、国道トンネル出口付近で対向の大型トラックと正面衝突				

10	～ 13	したものの。	40301	221	17	1～9
10	4 ～ 5	被災者は3 tトラックを運転し、国道を西から東方向に走行していたところ、2車線から1車線に変わる箇所に停車していた大型貨物自動車（トレーラー）の被けん引車後部に追突したものの。	40301	221	17	10～ 29
10	2 ～ 3	国道をトラックにて走行中、赤信号のため、減速を始めた大型トラックに追突した。	40301	221	17	1～9
10	2 ～ 3	国道において国道の舗装修繕工事の事前調査のため片側通行の道路規制をかけていたところ、走行してきた大型トラックが道路規制の停止線を越え標識車の後部に追突し、標識車の運転席にいた労働者が追突によるショックで心肺停止し、搬送先の病院で死亡が確認された。また助手席にいた労働者も軽傷（鼻血のみ）を負ったもの。	170201	221	17	10～ 29
10	10 ～ 11	被災者は建設現場へ資材を運搬するために貨物自動車（種類：平ボデー、最大積載量：2トン、車両総重量：約4.5トン）を運転して向かっていたが、傾斜が緩やかな行き止まりの市道に立ち入ったため停車し、配送先の建設現場を確認しようとして（推定）降車したところ、車両が動き出したため、車両を止めようと貨物自動車の前に立ち入り、貨物自動車と高さ約70cmの車止めに挟まれ死亡したものの。	40303	221	17	1～9
9	6 ～ 7	被災者を含む労働者3名が現場に向かうために、車両・資材置き場からトラックに乗り込んで、バイパス下り線を走行していたところ、合流車を避けようとブレーキをかけたためにスリップし、他車に接触後、後方走行のトラックに追突されたため、助手席の被災者がショック死したものの。	30309	221	17	1～9
	8	被災者及び同僚の計2名で、トラックに乗車して事務所から作業現場（道路保守工事の一環で、通行の邪魔になっている枝を除去する作業。一日で終了するもの）へ向かうべく国道を走行中（運転者は				100

9	～ 9	被災者)、対向車線にはみ出し、大型トラック(ユニック)と正面衝突して、被災者は全身を強く打ち死亡したもの。助手席に乗っていた同僚及び大型トラックの運転者も負傷した。	30201	221	17	～ 299
9	8 ～ 9	ドラグショベルをダンプトラックに載せ個人の畑に搬入するため、道路を走行中、ダンプトラック運転者が道路を間違え進入路を通り過ぎたことに気づき、ダンプトラックを後進させたところ、ダンプトラックの後方にいた被災者が公道においてダンプトラックに轢かれた。	60101	221	17	1～9
9	21 ～ 22	大型トラック(冷蔵冷凍車、最大総重量25トン)に鮮魚等を積込み、市内にある卸市場に向け、自動車道を走行中、トンネル内(310.3キロポスト付近)の右側壁に衝突し横転した。被災者は、車外で倒れており死亡(即死)が確認された。	40301	221	17	30～ 49
9	12 ～ 13	商品配送中、トラックを路肩に止め荷台上の片付け等をしていたところ、道路の勾配でトラックが前進しはじめたため運転席側のドアを開け乗り込もうとした際(目撃者がいないため推定)、運転席側の前輪及び後輪が側溝に落ちて車体が傾き、ドアの外表面が側溝横の擁壁に接し、被災者の上半身が車体(運転席)とドア内面の間に挟まったもの。下半身は車外に出た状態であった。	80209	221	17	30～ 49
9	10 ～ 11	自動車道上り線を走行中、被災者の運転する1.5トントラックが左側の法面に乗り上げ横転し、死亡したもの。	80109	221	17	1～9
9	10 ～ 11	片側1車線を規制し道路工事を行っていたが、交通誘導をしていた警備員が、現場にバックで入場してきたトラックに轢かれたもの	170201	221	17	50～ 99
9	16 ～	ガソリンスタンドにおいて、2トンダンプトラックに給油を終えて、事業場の作業場に戻るため国道を北進し、トンネルに入ったところ、濡れている路面でスリップし、左後輪が縁石にぶつかり、そ	30302	221	17	10～ 29

	17	の反動で対向車線にはみ出して大型トラックと正面衝突し死亡した。				
9	12 ～ 13	被災者は貨物自動車（トラッククレーン）で片側2車線の高速道路を走行中、前方を走行していた貨物自動車に追突した後に横転し、同乗者の労働者が負傷し、運転していた被災者が死亡した。	40301	221	17	30～ 49
9	2 ～ 3	自動車道下り線において、走行車線を走っていた大型トレーラーが、2時間前に発生した車両4台が絡む玉突き事故により最後尾で停車していた大型トラックに追突した。追突した大型トレーラーの運転席は大きく破損変形し、当該トレーラーを運転していた男性が死亡した。	40301	221	17	10～ 29
9	0 ～ 1	国道を走行中、上記発生場所付近の右曲がりカーブの路肩に止まっていた大型トラックに追突、全焼したもの。	40301	221	17	30～ 49
9	4 ～ 5	被災者は工場内の夜間の巡回警備に従事する労働者で、工場内の労働者が運転する25tトラックが、工場で生産された木質チップの積込みを終え、工場の門を出た近くのT字路（公道）で方向転換のため後退したところ、被災者はトラック左後輪に轢かれ、多臓器不全（出血性ショック、右下肢高度挫滅・骨盤骨折）により後日死亡したもの。	10409	221	17	10～ 29
9	20 ～ 21	工事現場から、所属店社に帰社途中、自動車道下り線において、労働者3名が乗ったトラックが乗用車に追突し、運転者が脳挫傷により死亡、助手席の同乗者が右足首を骨折、後部座席の同乗者が肋骨を骨折した。	30201	221	17	10～ 29
8	6 ～ 7	4台の車両（前から1台目3トントラック、2台目バン、3台目12トントラック、4台目2トントラック）が渋滞で止まっていたところ、4台目のトラックに、後方から12トントラックが追突した。これにより5台の車両の玉突き事故が発生した。4台目のトラックを運転していた被災者は3台目と5台目の車両に挟まれ全身	30309	221	17	10～ 29

		を強く打って死亡した。被災者は運転兼工事作業員であり、資材を積み込み工事現場に運搬している途中であった。				
8	6 ～ 7	被災者は、ダンプトラックを運転し建設現場に向って走行中、差し掛かった橋の高欄に激突し車外へ投げ出され、約15メートル下方の川の中で倒れているところ発見された。災害発生現場の手前は片側1車線の緩い右カーブであり、カーブを曲がった先で対向車線にはみ出し高欄に激突した後、走行車線に戻った位置で車体が停車していた。シートベルト使用の有無は調査中だが、バックル等に損傷なし。	40301	221	17	1～9
8	16 ～ 17	被災者は、工事現場での作業を終え、ダンプを運転し事業場へ帰社中、片側二車線の右側車線を走行していたところ、前方を走行するトラックに追突し、反対車線へ飛び出し、街路樹、倉庫に衝突し、被災したもの。なお、追突されたトラックの運転手は、頸椎を痛め休業中。	40302	221	17	10～ 29
8	14 ～ 15	被災者が50ccバイクに乗り、夕刊の配達を行っていたところ、中央線より対向車線を走行してきた2tトラックの右前方部分に衝突し、大動脈破裂で死亡したもの。災害発生場所は、見通しは良いが被災者から見て緩やかな下り坂であった。	80205	221	17	10～ 29
7	2 ～ 3	最大積載量29tの大型トレーラーに鉄骨約25tを積載し、県道（現場は走行方向に向かって、緩やかな下りの左カーブ）を南進中、対向車線を横切り、工場の社員寮に突っ込み、同車両が横転、運転手が死亡したもの。	40301	221	17	50～ 99
7	8 ～ 9	自社所有の10tセルフローダートラックが置いてある営業所に出社し、当該トラックにクローラクレーン（4.9t）を積み込み、配送先である建設工事現場に出発した。荷卸し指定時刻が9時であったため途中時間を調整し、現場で重機を降ろした。帰路において現場から車で5分ほどの山道（幅約6m）で緩い左カーブを直進し、山の法面に衝突した。	40301	221	17	10～ 29

7	16 ～ 17	自動車道下りインター付近にて、渋滞のため停車中、後方よりトラックに追突され、そのはずみで前方3台に玉突きし、車両が大破した。救急搬送されたが、死亡した。	170209	221	17	100 ～ 299
6	16 ～ 17	翌日から開始予定の商業施設新築工事における地盤改良工事において、前泊予定地であるの宿泊施設にかうため、同僚運転の4 tトラックと被災者運転の3 tトラックで高速道路上り線を走行中、渋滞で減速した同僚の4 tトラックに追突し、さらに前方乗用車2台が絡む車両4台の玉突き事故となった。被災者が失血死し、同僚が頸椎捻挫で5日間の休業、乗用車の5名（私用）が頸椎捻挫等を負ったもの。	30201	221	17	10～ 29
6	6 ～ 7	被災者全員（5名）は資材置き場に集合し、事業場所有の2トントラックに乗り合せ、川上の建設工事現場へ出発した自動車道上り車線の121.6キロポスト付近において、片側2車線の左車線を通行中、雨によりできた路上の水溜まりに入ったところ、ハンドル操作ができなくなり、上り車線右端の中央分離帯のガードレールに衝突し、横転等し、上り車線左端で停止した。	30105	221	17	10～ 29
6	0 ～ 1	被災者は国道で中型トラックを運転していた。交差点で信号待ちをしていた大型トラックに被災者が運転する中型トラックが衝突し死亡した。	40301	221	17	10～ 29
6	2 ～ 3	被災者は、高速道路下り線を大型トレーラーで走行中、中央分離帯に衝突し横転した。被災者は脳挫傷のため死亡した。	150103	221	17	50～ 99
6	12 ～ 13	作業員2名で住宅解体工事現場で廃材をトラック（8 t）に積み、帰社する途上、自動車道下り線において、走行中に助手席側後輪に絡まったレジャーシートを除去するべく、追越車線上にトラックを停車して、トラックを運転していた作業員が降車し除去を行っているとところへ、後続して走行してきた軽自動車に追突し、同作業員がはねられた。トラックの助手席にいたもう1名も右腕骨折等の負傷	30202	221	17	1～9

		をした。				
6	10 ～ 11	被災者はタンクローリーを運転し、自動車道上り線トンネルを通過して次のトンネル連続区間手前を走行中、渋滞のため停車していたトラック1に追突、胸を強く打ち死亡した。なお追突されたトラック1はその前に停車していたトラック2に、トラック2は同じく前に停車していたトラック3に追突（玉突き）した。またトラック12の運転手も軽傷（休業の有無等不明）を負った（トラック3の運転手は無傷）。	40301	221	17	50～ 99
6	2 ～ 3	被災者が大型トラック（14t）を運転し、国道を走行中、対向してきた大型トラック（13t）がセンターラインを越えて飛び出したため、被災者の運転するトラックと正面衝突して胸などを強打ち、搬送先の病院で死亡が確認されたもの。	40301	221	17	10～ 29
5	12 ～ 13	プラントで製造された生コンを被災者が運転するミキサー車で運搬していたところ、橋の欄干を突き破って川に転落し、死亡したものの。被災者はマンション新築現場へ向かう途中であり、当日4回目の運搬中での事故であった。	40301	221	17	10～ 29
5	12 ～ 13	自動車道を走行中、工事渋滞で低速走行していた大型トラックに追突した。	40301	221	17	30～ 49
5	10 ～ 11	トラックを運転して有料道路を東進中、雨でスリップして側壁に3回衝突した。単独事故である。	40301	221	17	10～ 29
5	14 ～ 15	10tトラックを運転し、荷卸し作業を終え、空車にて帰庫途中、高速道路下り線IC付近トンネル内で停車中の故障車（トラック）に、後方から追突し、追突した10tトラックの運転者が死亡したものの。	40301	221	17	50～ 99
6		被災者は、新聞配達業務中、バイク（原付）で県道を走行していた				

5	～ 7	ところ、右折しようとしたトラックに轢かれ、病院に搬送されるも約2時間後に外傷性くも膜下出血で死亡した。	80205	221	17	1～9
4	～ 5	被災者は、コンテナを運搬するため、トレーラーを運転して国道を走行中、何等かの原因により車体のコントロールを失い、跨線橋左側のガードレールを乗り越え、約10m下の側道に転落した。被災者は、車外に投げ出され、全身を打つなどして死亡した。なお、現場は片側3車線の直線道路であり、事故当時は雨が降っていた。	40301	221	17	10～ 29
4	0 ～ 1	国道を時速約70kmで走行中、カーブを曲がりきれずにトラックが横転し、道路脇の鉄柱に衝突したものの。	40301	221	17	10～ 29
4	18 ～ 19	他店舗に食材を取りに行くため、国道を被災者がバイクで北東方向に走行中、反対車線から右折してきたトラックの側面に被災者が衝突し、被災者がバイクから投げ出され、当該トラックの後続車に撥ねられた。	140201	221	17	10～ 29
4	8 ～ 9	被災者は、道路拡幅工事現場で、交通誘導業務を行っていたところ、道路上に設置されたカラーコーンをなぎ倒しながら走行してきた軽トラックにはねられ、病院で治療を受けたが、死亡したものの。また、被災者の近くで作業を行っていた別法人の事業者の役員（専務取締役）もトラックにはねられ負傷したものの。	170201	221	17	50～ 99
4	0 ～ 1	被災者が運転するトラックは、交差点を直進するため進入したところ、対向車線から右折しようとしたトラックに衝突したものの。	40301	221	17	10～ 29
4	4 ～ 5	冷蔵庫で商品を積み込んでから、納品先へ向け走行中、高速道路上り線で前方大型車へ追突したものの。	40301	221	17	100 ～ 299
3	4 ～	荷物を運搬途中、車両トラブルが発生し、高速道路の2車線のうち、左側の走行車線に停車した。車両トラブル解消のために車外で作業を行っていたところ、後ろから大型トラックに追突されて死亡	40301	221	17	1～9

	5	した。				
3	16 ～ 17	高速道路において、走行していた大型トラックが、渋滞により減速した大型観光バスに後方から激突したもの。大型トラックの運転手が死亡し、大型観光バスの乗員乗客38名が負傷したもの。また、大型観光バスが事故の衝撃により、前方に停車していた別の大型トラック（以下、「大型トラックB」という。）に激突し、大型トラックBの運転手も負傷したもの。	40301	221	17	50～ 99
3	12 ～ 13	3トントラックで食品の配達中に、県道を走行中虫をはらうために脇見をしたところ、走行車線右側の電柱に激突し、全身負傷、足を切断した。	40301	221	17	30～ 49
3	0 ～ 1	別の追突事故により高速道路上に停車していた2台のトラックに、約20分後に別のトラックが追突し、当該の運転手が死亡したものの。	40301	221	17	10～ 29
3	10 ～ 11	県道において、被災者が運転する2tダンプが、緩やかなカーブの手前で急にセンターラインを超えて反対車線にはみ出し、対向してきた大型クレーン車（70t）と正面衝突。この事故で、2tダンプを運転していた被災者は全身を強く打ち死亡（心破裂）。被災者は、工事現場で出た土砂を積み込み、土捨置場（約15km先）まで向かう途中であった。クレーンの運転者は軽傷であった。	30199	221	17	1～9
3	12 ～ 13	国道を南下していたトレーラーが、交差点の手前50メートル付近において、右折車線から対向車線の追越車線にはみ出たため、当該追越車線を北上していた被災者の運転するトラックに正面衝突した。当該トラックはオフセット衝突により運転席が大破し、被災者は頭部等を強く打ち死亡した。事故当時は雨が降っており、トレーラーは早いスピードで走行していた。	40301	221	17	10～ 29
	0	被災者が、1人で運転していた車両総重量24970kgの貨物自動車の異常を感じたため、国道上で、交差点付近の道路右側に停車				10～

2	～ 1	した後、当該自動車左側前から2輪目のタイヤ付近から出火し、毛布で出火場所を覆うことで消火活動を行っていたところ、当該タイヤが破裂し、重症頭部外傷により死亡したものの。	40301	221	17	29
2	10 ～ 11	利用者宅へ訪問看護のため、軽自動車で県道を運転し停止中、後方から接近してきた中型トラックに追突された。その弾みで被災者が運転していた軽自動車に対向車線にはみ出し、別のトラックと正面衝突した。	130109	221	17	1～9
2	8 ～ 9	顧客より依頼のあった玄関戸の建付け修理作業を終えた被災者が、自分が運転していた軽トラックを県道上に停車していたところ、後方から時速60キロで走行してきた2トントラックに追突され、軽トラックごと県道脇の法面を転落して死亡したものである。	80209	221	17	1～9
2	8 ～ 9	被災者は雪堆積場の出口で退場するダンプトラックの交通誘導の業務を行っていたところ、道道から右折して当該雪堆積場に入ろうとしていたダンプトラックが、対向してきた乗用車に衝突し、その反動で当該乗用車が被災者の立っていた場所に突っ込み、被災者が撥ねられて死亡したものの。なお、衝突された乗用車の運転手は出勤途中であり、軽傷を負った。また、ダンプトラックの運転手には怪我はなかった。	170201	221	17	30～ 49
1	0 ～ 1	被災者は、事業場へ荷物を運ぶため、所属事業場の車庫を出発したが、高速道路で前方を走行していた大型トラックの後方に追突した。なお、追突されたトラックの運転手に負傷なし。	40301	221	17	10～ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_07.html